

156号  
Summer  
2021

ま

ほ

ろ

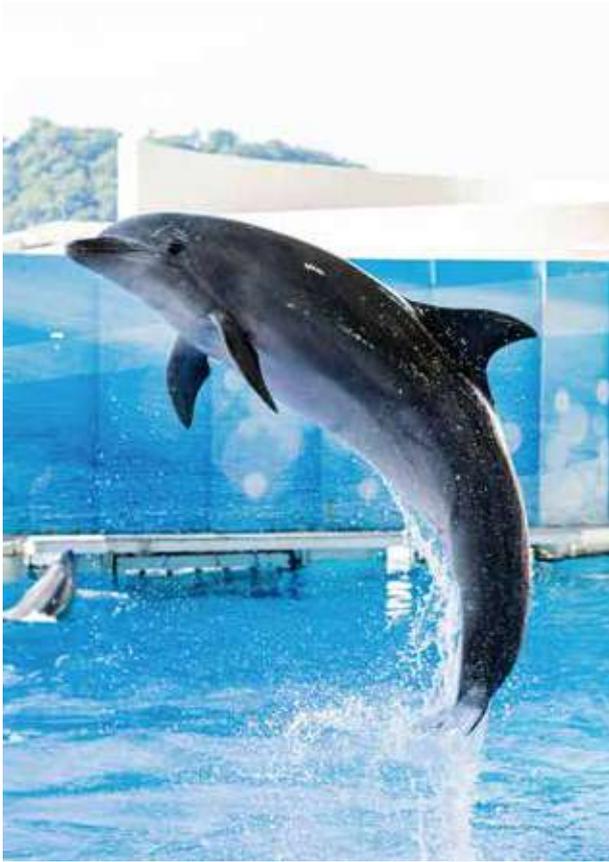
ろ

ろ

ろ



全国まごころケアネット



イルカショー

# CONTENTS

巻頭言 「保存食」

1

孫子老だより ～健康管理はユーモアと笑いで～

2～4

センターだより

5～7

寄稿「戦争体験を継ぐ」

8～12

令和3年度介護報酬改定の主な事項について

13～16

事務局通信

16

# 保存食



特定非営利活動法人  
日本ケアシステム協会  
会長 兼間 道子

庭で育てた梅が例年より多く実った。まだ、青いので1週間待ってから収穫することとした。それまでに、瓶を洗って氷砂糖と焼酎を用意する段取りは楽しい。漬け込む作業は面倒くさいと思う時もあるけれど、飲み頃に至って梅酒の出来栄を確認する時間は代えがたい。

洗濯場の隅っこには、昨秋漬けた柿酢と杏子酒がちょうどいい具合に仕上がっている。古い無造作な作業場の中には10年以上経った瓶もある。昔のことだが、古びた瓶を中身ごと処分された苦い経験があり、それからは「捨てるな」と瓶に張り付けて保管してある。私には宝物でも、保存の中身の分からない物体などごみ同然と、賞味期限切れの汚物と勘違いされて捨てられる事態も。最近では、家族皆が私の意向を知って手を出さない、間違っ捨てたりはしなくなった。

一滴の柿酢が出来上がるまで、ずいぶん手間をかける。健康には抜群の効果があると信じていて、口にする時は自分への格別な贈り物と出会う喜びがある。

さて、高校生になった孫が「梅干し、どうやって作るか詳しく教えて。おばあちゃまの漬けた梅干しの味は売ってない」という。私はさっそく、得意げに「塩だけで他に混ぜ物を入れんこと。」と返答。どうやら、お世辞でもなさそうで、幼いころから口に入れた梅干しの味を舌がおぼえたのだろうか。望むのなら喜んで伝授しよう。

日増しにできないことが徐々に増えている、「来年は無理かも」と去年も同じことを思った。いずれ、人の手を借りなければ言動できなくなるだろうが、その日その日を丁寧に真摯にしたい。

# まごころ 孫子老だより

## 健康管理はユーモアと笑いで

**みなさま、お元気でしよう**

か。こんな世の中が1年半も続くとは、想像もできませんでした。本当に皆さん頑張られましたね。不幸にも、お亡くなりになられた方、ご家族の方には心よりお悔み申し上げます。また長期にわたりコロナ対応の最前線で業務に携わられた皆様には、深く感謝申し上げます。ワクチン接種率が高まるとともに免疫効果が発揮され、以前のような日常に戻れる日も、そう遠くはありません。感染におびえる毎日から季節を追うごとにそのような不安から解放される希望が持てるような気がいたします。但し、ワクチン摂取をしても、すぐに抗体ができるわけではありません。また1回接種より2回接種の方がより免疫力が上がることは自明です。油断せず感染予防に努めてください。

また、夏場は、熱中症にも気を付けなければなりません。コロナ自粛で屋内での生活時間が多くなり、運動不足から体力の落ちた人、太った人、活力が低下した人、このような方は、マスク着用と暑さから息苦しくなり、倒れてしまう事例も報告さ

れています。エアコン、扇風機、冷却剤などを活用して、熱中症にならないように自己管理をお願いします。

**歯医者さんまでも動員した**

**ワクチン接種ですが、**接種の練習用にと用意された鴨肉が写るニュースを目にしましたが、あのカモ肉は、その後どのようなものか、エステーシーズの達成目標に沿って鴨南蛮にでも再利用？少し気になります。

本来なら国を挙げて盛り上がるはずのオリンピック・パラリンピックも主役となる選手や競技内容よりもトップの方々のゴタゴタ問題でシラケ気味で見えています。大相撲も横綱の連続休場、引退、ケガ、規則違反、暴力問題続きで見なくなりました。古くは北の湖、輪島、千代の富士、若貴、あの頃のような面白い相撲は、もう見られなくなりました。



違うチャンネルに回しても（チャンネルを回すという言葉が理解できる人、あなたは仲間です）犬猫動画だったり、再放送のツギハギ放送、番組宣伝のための番組、低予算のクイズ番組だったり特に見たいと思う番組がありません。これでは、奇想天外な動画ばかりのユーチューブに視聴者が流れていくのは自然です。今後、放送業界の再編もあるような気がいたします。

朝は、ラジオを聞きながら新聞を読むのが日課です。週末の無料掲示板の記事で、行方不明になった犬猫を探す人や、学生服や不用品を譲りますという方が情報を載せているのですが、最近気になったのが「インコ」を探している人が増えたことです。連絡くださいと書いていますが、あの方は、羽でどこにでも飛んで行かれます。仮によく似た鳥を見つけて連絡したとして、すぐに駆けつけて捕まえることができるのでしょうか、犬のように名前を叫んだら戻ってくるのでしょうか、鳥カゴより本来の住処である大空を選んだ彼らを連れ戻すのは至難の技のような気がします。どうなんでしょうか。

## 先日、歯が抜けたので、一年

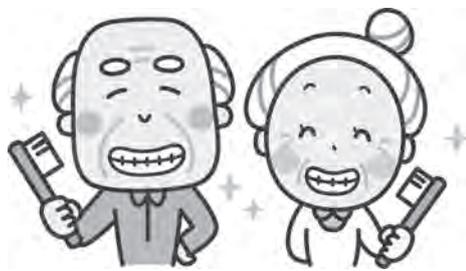
ぶりに、いつもの歯医者さんに行きました。「孫子老さん、これは治療しても治りません、おすすめとしては、部分入れ歯になりますか、どうされますか？」ちなみにこの先生は、女医さんで、年のころは30代から40歳ぐらいで、内科でよく見かける、〇〇認定医、生年月日いつという証明書のたぐいは一切掲げていない、年齢不詳。ドラマに出てくるようなバリバリの美人という方でもなく、どちらかというと愛嬌型と表現することにします。

この数十年歯医者放浪を繰り返して、やっとこの先生に巡り合えました。歯医者さんほど相性を感じる病院は、あまりないように思います。受付から治療までの待ち時間、治療のやり方や説明、治療時間や日数丁寧さ、言葉遣い、診療費など検討すべき項目は多岐にわたります。

お見合いで初めて会った途端に分析が始まる女性の観察力と一緒です。見合いから帰宅したら直ちに親やら仲人さんから電話がかかり、やり手ババアのごとく「気に入ったの？」の質問口撃、日ごろからポーッ

としている男性陣は、「よい人だったよ」と一言、「そんな感想しか無いのかい。まったくこの子ったら、ポーッと生きてんじゃねーよ！他に言うことないのかい、何を話してきただんだい、好きな食べ物とか、趣味とか、家族の話とか、なんか無いのかい？」上司だったら、パワハラで訴えることができます。

逆に女性側は、年収、長男か次男か 他に小姑は、顔色は健康そうか、身長は、足の長さは、爪を切っているか、歯は、白いか、タバコは吸うか、星座は、干支は、話し方は、時計は、車は、金払いは、たった数時間のデートでCIA並みの調査能力と女の勘で、一瞬にして交際から結婚までの想定を始め、可否を下すのです。



## 話は、戻りますが、部分入れ

歯と言われたときに、入れ歯おじいさん若くない若くない老化とネガティブなイメージを連想して、返事に躊躇しました。「先生、インプラントはどうでしょうか？」先生、「孫子老さん、インプラントは、自由診療ですから、1本約30万円ですね。しかもメンテナンスは、一生続きますから、費用はいくらかかるかわかりませんよ」入れ歯よりインプラントのほうが時代の先端をいつているような感じがして、どうしようか迷っている

と「孫子老さん、その歯だけではなくあなたの場合、他の歯も全部グラグラでいつダメになるかわかりません、全てインプラントにしたなら32本掛ける30万円は、960万円、維持費が200万円、1千万は超えますね、どうされますか？」その愛嬌型の女先生は、矢継ぎ早に畳みこんでいきます。

この理路整然とした説明が好きです。「入れ歯で結構です。前から入れ歯が気になっていました、入れ歯でぜひお願いします」おそらく入れ歯という名前が悪いのではないかと調べてみましたが、入れ歯は、入れ

歯でした。英語とかフランス語で言い換えたらオシャレに聞こえるかもしれないませんが、通じません。結局30万の治療費が4千円で済みました。なんだか得した気分になった私は、帰りに見切り品の握り寿司を買って帰り、愛妻に喜ばれました。これで三方よしと、私の周りが、うまくおさまりました。

## 入れ歯の治療が終わり、初め

ての着脱指導になりました。治療椅子から、受付横のテーブル席に移動し、女医先生と向かい合って座りました。「孫子老さん、自分で入れてみてください」「それで結構ですかチカチと噛んでみてください。そうです。いいですね」私は素直な腹話術人形のように口だけカチカチとやり続けました。「孫子老さん、次は外してみましょう」「親指と人差し指でお金のマークを作ってください、それから人差し指の先で奥歯のワイヤーにひっかけて、少し浮いたら親指と……」ひみつのアッコちゃんに出てくるような可愛いピンクの手鏡に向かって小太りのおっさんが口に指を突っ込んで何やらもがいて

いるのを女医の先生があきれ顔で指導している様子は、ユーチューブにアップしたら1万回再生は、軽く達成できると思います。「先生、外れません。わかりません」たかが入れ歯と馬鹿にしていた自分を恥じました。

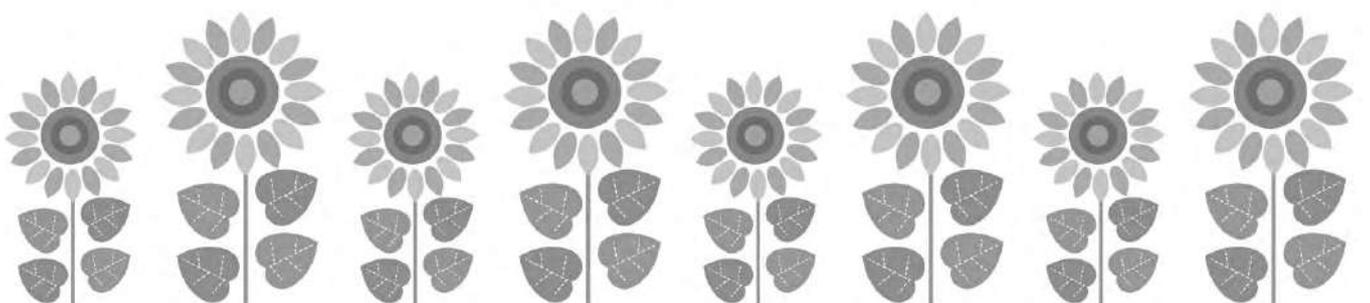
先生が立ち上がり私の横に来て「孫子老さん私が外しますので前の鏡で確認してください」女医さんの指と私の指が口の中でこんがらがって、アッコちゃんの鏡の中で何がどうなっているのか、まったく見当が付きません。「孫子老さん、ちがう、ちがう、人差し指は、ここにひっかけて、ちがう、こっち、こっちですよ」私には、先生の言う、こっちがどっちかわからないまま。先生の指を舐めてみたり、自分の意志と関係なく動き回るスケベな舌と先生の指と私の指の格闘が終わりを見せるころ、カチット入れ歯が外れました。

「孫子老さん、何度か練習したら慣れますから、頑張ってください」と淡々と語り、その短く濃密な時間など、忘れましたという感じが好きです。放浪の末にたどり着いたこの歯医者先生と新しい入れ歯を今後

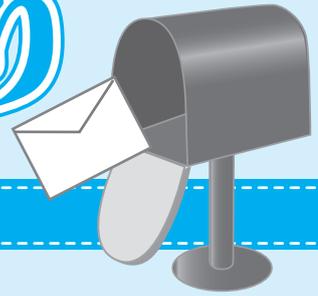
も大事にしていこうと、心に誓った瞬間でした。

### 【孫から面白川柳のご紹介】 第⑬回シルバー川柳入賞作品他

- ・「前向きで」 駐車場にも 励まされ
  - ・コロナ禍で 太ったことに しときましよう
  - ・症状を 言えば言う程 薬増え
  - ・本性が 出ると言うから ボケられぬ
  - ・耳遠く オレオレ詐欺も 困り果て
  - ・子は巣立ち 夫は旅立ち 今青春
  - ・恐ろしや コロナの後の 体重計
  - ・白内障 術後びっくり シミとシワ
  - ・耐えてきた そう言う妻に 耐えてきた
  - ・「やせなさい」 腹にしみいる 医者の声
  - ・やつと縁 切れた上司が 再雇用
  - ・はよ帰れ それを言うなら お前やれ
  - ・次の世で 亭主に逢ったら 手だけ振る
  - ・無くしたと 探すマスクは あごの下
- ワクチン接種が加速され、世の中のいろいろな不安が無くなりますよう願って、秋には笑顔でまたお会いしましょう。
- 孫子老太郎



# センターだより



## まごころケア 旭川センター

旭川の今

センター長 武田 明子

北海道には「リラ冷え」という言葉があります。リラとはライラックのこと。小説の中から生まれた言葉のようです。白く閉ざされた冬から解放され、桜が散った後、かすかに優雅な香りが漂い、ふと見上げると白や薄紫のライラックが咲いているのです。その頃は明るい日差しとピョンと張りつめた冷たい空気が次の季節を予感させます。ある日、前日までカーディガンを着込んで過ごしていたのに突然夏日になるのです。コロナ禍でも自然は気まぐれにそしていつも通りに移ろっていきます。

さて、旭川センターですが、コロナ対応で毎月のヘルパー会議も対面ではできず、ずっと書面で行ってききました。3月にはようやく下火になり、一人一人のパーテーションを購入し、窓もドアもあけて久々の対面会議をいたしました。春の喜びと一緒に事務所にも賑わいが戻ってきた

ように感じました。しかし変異株の流行で再び人が集まることができなくなり、5月に予定していた研修も、緊急事態宣言発令により、札幌からお呼びしていた講師が来られなくなり、急遽中止になりました。6月も

全員集まれる状況ではなく閉塞感が続いております。それでも利用者さんの中にも、会員の中にもポツポツとワクチン接種が進み、少し先に灯りが見えてきたように思います。

また、最近新しく旭川センターに加わってくれる仲間が増えてきています。旭川センターのためばかりではなく、福祉の世界で自分らしく活動する人々が増えることは本来にありがたいことです。皆の熱意を一層大事に取り組んでいきたいと思っています。



ライラック

## まごころケアサービス 福島センター

コロナ禍におけるデイサービス

看護師 中野 玲子

昨年からのコロナ感染拡大により福島センターでは恒例のお泊り会、こども食堂の開催等はできませんが、三月終わりごろの水仙、桜に始まり花桃、椿、ダリア、芝桜等の花々に囲まれ、暖かい日には庭でのお茶など利用者の皆さんは元気に過ごされています。利用されている方々の半数近くは九十歳以上で最高年齢の方は九十八歳です。

皆さん元気に来所されてよく笑い、おしゃべりをし、しっかりと体を動かされています。感染対策としては手洗いの徹底、食事時以外のマスク着用、レクリエーション時には使い捨て手袋の着用などをお願いしております。

皆さんはスタッフが促さなくてもマスク、手洗い等は自発的に行って下さっています。空気清浄機の使用、消毒薬噴霧、部屋の換気、また一日の終わりには必ず施設内の消毒を

行っております。

7月末には利用者の皆さん、スタッフ全員コロナワクチン接種が終わる予定になっていますので、唯一人もコロナに感染する事がないようにスタッフ一同心を合わせて頑張っています。



## まごころケア 国分寺センター

クスノキを切りました

川上 美佐子

ほたるの里の敷地にある樹齢五十年ほどのクスノキは、夏に日陰にな

り、春は鳥たちの憩いの場所となり、秋になれば落ち葉で焼き芋を楽しみ、あじさいの会の象徴として眺めてきました。一方で、クスノキというのは成長が早く、枝を切ってもすぐに伸びて、落ち葉の掃除は毎日の日課となります。またお隣さんの敷地へもたくさん落ちて申し訳ない思いました。



そして木を切る決心をし、地元の神主さんにおいでいただき、幹にしめ縄を張り、お神酒と塩でお清めをし、丁寧にお祓いをしていただきました。「長い間見守っていただきありがとうございます。」という気

持ちと、名残惜しいような寂しい気持ちが入り混じり、そっと幹に手を押し当ててお別れをしました。

四月三日に、周りにあった七本の松の木も一緒に伐採し、敷地の雰囲気随分変わりました。敷地内の草抜きを一手に引き受けてくれていた、草抜きボランティアさん新名さん曰く「拾っても拾っても落ちてくる葉っぱ、これでお掃除が楽になった」と、本音がポロリ。

それでも、大樹を切るというのは随分と勇気がいりました。命あるものを自分の意志で伐採することに抵抗はありましたが、昨今の気候変動



で万が一お隣さんの屋根にでも倒れたら、大変なことになりかねないと思ひ決心ができました。さて、今年の夏は日陰が無くなった分暑い思いをするかもと思ひながら、在りし日のクスノキを偲んでいます。

## にこにこ三豊 デイサービス

日々の積み重ね

上原 崇

今年、介護福祉士国家試験を受験しました。

介護福祉士資格の勉強をするにあたり、自分の性格ではギリギリまでなかなか動かないので、毎日少しずつ勉強することにしました。

勉強をしていくうちに、介護の難しさや厳しさ、楽しさを改めて感じるとともに、いろんな利用者さんにとどのように接していこうかと考え、実行する大切さが解ってきました。

いよいよ試験日になりました。自信もなくドキドキしながらの受験でしたが、試験では日々接してきた利用者さんの事が頭に浮かび、『誰々

はこう言っていたな』とか、『こう接してきていたな』とか、先輩や後輩スタッフが言っていた事、教えて頂いたこと等が、迷った時の助けになり、無事合格することができました。

今回は、介護福祉士資格の受験でしたが、日々の生活や仕事でも誰かの助けや教えが大事な時が多くあり、どのようにすれば利用者さんにとって一番いい介護ができるのか考えさせられることばかりです。

これからも勉強をしっかりと、努力を惜しまず、利用者さんにとって一番いい介護ができるよう、日々努力を積み重ねていき、利用者さんに「いい介護士で、いないと困る」と言われるような介護士になれるように頑張っていこうと思います。



## まごころケア 西春日センター

感染症の歴史を振り返ってみると  
(西洋版)

センター長 笠井 圭介

みなさま、お変わりないでしょうか。コロナウイルスは、新規の感染者が毎日全国で約五千人ずつ増えている状況で、一向に収束する気配が見えませんが、いつまで続くのか、不安な毎日をご過ごされていると思われまます。前回、「感染症対策、歴史を振り返ってみると」という題名で我が国の過去の感染症の状況について



投稿させていただきましたが、今回は西洋の事情はどうだったのかを述べたいと思います。

西洋では十四世紀頃、黒死病と言われる伝染病が発生し、二千万から五千万人が死亡したと言われていますが、実際には億単位とも言われています。そのためか、コロナウイルスが発生した初期の頃には、様々な国で街をロックダウン（都市封鎖）したのは記憶に新しいところです。

また、黒死病の後には農奴の反乱もあつて、領主は農奴を開放して封建制度の崩壊につながるといふ社会改革を行うきっかけにもなりました。一方ではユダヤ人に対する迫害も行われました。当時は病原体の原因がわからず、よそ者によってたらされた「何か」によって感染が広がっているに違いないということで、ユダヤ人が標的にされました。

現代のアメリカでもトランプ政権が、コロナウイルスは中国からもたらされた、とさかんに宣伝したため日本人を含むアジア人が狙われ、痛ましい事件が引き起こされています。歴史は繰り返すということでは

でしょうか。

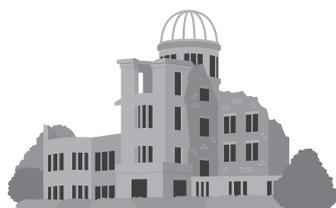
まごころケア西春日では、感染症対策のために、4階を感染者専用のフロアとし、ショートステイのフロアを4階から3階に移動しました。万が一クラスターが発生した場合でも、被害を最小限に抑えるためです。もちろんこうしたことが杞憂に終わればよいのですが、これからも気を抜くことなく感染症対策に全力を尽くしていきたいと思えます。

どうか一日も早くコロナ禍が終息し、人々が自由に交流できるよう祈っています。



# 寄稿 「戦争体験を継ぐ」

寄稿者：野上 さくら



太平洋戦争が終わり今年76年目を迎えました。実際に戦場に赴いた方々はもとより、子供時代に戦争を体験された方々も徐々に少なくなりつつあります。

これらの記憶を風化させることなく後世に語り継ごうと、高校の卒業研究（卒業プロジェクト）のテーマとして取り組んだ研究成果をシリーズで紹介しています。

前号から続く

## 第五章 発信活動

### ・五章のはじめに

### ・「私の活動ではなかった？」

### ・「平和大使の報告会」

### ○中間発表原稿

### 五章のはじめに

夏休みを終えて、「継ぐ」の部分に取り掛かろうとした。つまり発信活動だ。この伝えるという部分が私の卒業プロジェクトにおいて一番大切な部分だとも言える。高校生平和大使の活動の報告会、コラム集の政策、証言会を開いたことなどがこの「継ぐ」の部分にあたる。

インタビュー記録を主としたコラム集は秋頃から最終発表の直前まで全十回で、高等部向けに張り出した。私が最も力を入れて製作したものである。

最初の報告活動は、学校の先生方に設けていただいた時間で、七年（中学一年生）以上を対象に高校生平和大使としての体験の報告をしたことだった。私にとっても聞いてくれた

生徒にもいい時間だったと思っている。

出だしは良かったが、その後から長い苦しい時間が続いた。私の卒業プロジェクトは辛かったり無気力だったりとやや苦労が多かった。しかし、この章でお話するものはその中でも一番厄介なものとなる。それに時期も悪かった。なぜ「後少しで卒プロも終わる」という時なのだろうか……。

「発信する」ということは、「受け取る」や「学ぶ」よりもずっと体力がいる。また、このテーマを伝えることは根気がいる。少しでも伝わらなかつたら、「私がやっていることに意味はあるのか」と悩んでしまう。夏休みまでのエネルギーはどんどんしぼんでゆき、次第に卒プロを続ける意味を見失っていった。

この章ではそんな日々のこと、もがきながらも活動したこと、そしてやる気を取り戻したのかそれとも停滞したままなのかということについて取り上げた。思い返せば、なんだかめっちゃくちな、でも必要な卒業プロジェクト期間だった。

### 「私の活動ではなかった？」

夏休みが終わってからの、発信活動を始めようとした私だったが、だんだん自信が持てなくなっていた。周りのみんなを見てみると「私は卒プロをしつかり自分のものにできているのだろうか」と考えてしまった。

考えてみると私の活動はたくさん活動しているように見えて、自分で何かを一から始めているというようなことは少ない。活動の多くが何か「参加する」という形のものだった。

例えば私はこの夏スイスに行つて、国連という大きな場所ですピーチをした。だが、飛行機も準備されており、お金だつて一円も出していない。その上、様々な活動はあらかじめ決められたもので、スケジュールに関しての心配事など無いに等しかった。

「内容がすごく見えても、それは私が参加したその元の活動がすごいだけであり、準備されたものをただこなしているだけかもしれない」と思うようになった。「実際に自分で考えて行動できているのか。それともただ言われたことをやっているだけ

けないか。」夏休み明けからしばらく、そんなことばかり考える日々が続いた。

「それでも、そこに行こうと決めたのは私であり、そんな活動の中で感じた豊かさや学んだこと、様々な経験は私自身のものだった。」と考えるまでには、しばらく時間が必要だった。

### 「平和大使の報告会」

夏休みの高校生平和大使として活動の報告を三回行った。

まずはじめに京田辺シユタイナー学校、そして大阪、兵庫。

学校での報告会は、七年生以上の生徒全員。スイスでの活動を当時の熱を持ったまま最大限出し切った。その熱が聞いてくれてくれる人に伝わった気がした。

報告会が終わり、家に帰ると弟が「よかったで。上から目線じゃなかったし、受け入れられた。俺はいやじゃなかった。」と言ってくれた。素直に嬉しかった。

弟がこんな風に言ったことが今までもあっただろうか。いつも感想を聞いても「別に」とか「後で」などと

答え、問い詰めても「あゝ、もうよかったよかった。」とその場を切り抜ける。そんな弟が問い詰めもしないのに、その場のぎではなく「よかった。」と感想をいうことは「激レア」なのである。何かと腹の立つ弟だが、こんな瞬間が少しでもあるなら、兄弟でいるのも悪くない。

弟が「激レア発言」をしたぐらい



若い人がいるというだけで嬉しい。兵庫県での報告会は若い方を対象に行わせていただけだ。

だから、きつと本当に伝わったのだと思う。素敵な時間だった。

そのあと行った、兵庫と大阪での報告会は高校生平和大使の活動を支援してくださっている組合の方々に向けて行った。

大阪では教職員組合の方々、兵庫では郵便局の労働組合の方々に向けて報告をさせていただいた。

十一月二十三日、兵庫県での報告会は若い方々が多く参加してくださった。ちょうどその頃私は自分自身の活動に自信が持てなくなっていたときだった。だが「やっぱり行きません」ということはできない。私は「これでいいのだろうか」と思いつながりも、言いたいことはしっかりと伝えた。

報告を終えた後、「何も知らなかった。帰ったら高校生平和大使について調べてみようと思う。本当にきてよかった」と伝えてくださった二十ぐらいの男性がいた。その言葉を聞き、私の方こそ「今日来てよかった。」と思った。

大勢の中の一人でも、そんな風に感じてくれる人がいるなら、私が伝える意味は十分あると思えた。



報告会とセットで駅前にて署名活動

### 中間発表原稿

今月の初め、十一年生たちのテーマ発表を聞きながら不思議な気持ちになりました。「あれから一年。あの頃の自分は二年間でこれほど多くの体験をするとは思っていなかったな。」と思ったからです。それほど充実した一年でした。

今まで活動してきた中で、私はこれらの活動をいくつかの言葉で分けてみました。戦争資料館に行くことや講演会に参加すること、そしてインタビューをするなどの活動を指す「学び」。そして主には夏休み期間に高校生平和大使として行った活動のことを指す「活動」。そして学び活動する中で気づいたことや内容そのものを、私を通して周りの人に伝えるという「発信」。この三つです。

さて、一年前から今までを振り返ってみます。私はテーマ発表後から冬休み期間にかけては私には少し重かった「学び」の期間でした。

冬休みのある日私は広島市の平和記念館を訪れました。そこに、ある中学生が持っていたという一つの焼けたお弁当がありました。お弁当をお腹に抱きかかえた状態で亡くなっていったそうです。そのお弁当箱の中にはご飯が詰まっていた。それは戦争というのはグロテスクな怖さだけじゃない、私たちが現在生きている中では見逃しそうなぐらいのちよつとした楽しみやささやかな幸せを奪っていくものだと教えてくれました。そしてそれがどれだけ悲しくて残酷なことなのかもです。私はそのお弁当箱の前に長くいました。「お弁当食べたかったらうな。」と何度も思いました。原爆はある中学生がお弁当を食べるその直前に落ちるのです。それが戦争なのだと感じました。それまでの私の感覚を大きく変えた日でした。

冬休み明けから夏休みまでは講演会へ参加したりインタビューをしたりしました。私はお話を伺う中で多



くのことに驚かされましたが中でもショックを受けたのは、朝鮮の方の存在です。広島では三五万人の人が原子爆弾によって被曝しました。そのうち五万人の人が朝鮮の人だったのです。さらに大きなショックを受けたことがあります。それは被曝した広島市民のうち三七%の人が被爆死したのに対して、朝鮮の人々は被曝した人々のうち六〇%の人がなくなつたということです。朝鮮の子供達は小学生が集団で田舎へ避難

する集団疎開はさせてもらえませんでした。原爆投下後も朝鮮の人々は放射能で汚染された地域に残り生活していました。これらのことが原因で多くの朝鮮の人々が命を落としたのです。彼らは無理やり日本に連れてこられ命を守ることも許されず亡くなつたのです。このことを今まで私は知りませんでした。しかし、知らなかったというのはあまりにも無責任であり、申し訳なく思います。

また他の方がおっしゃつたことを聞いて言葉を失つた時もありました。「あなたが今歩いてきた大通りあるでしょ。あれも朝鮮人がつくつたのよ。」私は私たちが朝鮮の人々がつくつた道を使って生活していることを知りました。毎日いろんなひとがその道を通つて学校へ行つたり遊びに行つたり仕事へ行つたりします。私たちは、過去に犯した過ちを背負つて生きていかなければいけないのだと思います。けれども、背負うというのはただ私たちが苦しむだけではありません。きっとその重さを感じることはもう二度と同じ間違いを犯さないようにするための助けになるはずです。

ここまでで、みなさんは知らないということはいけないことだと私が述べているように感じられているかもしれません。しかし、「知らなかった人が知る」というそのことこそが私の卒プロの目的でもあります。だから、知らないこと自体が悪いことではないと思っています。むしろ知らない人が関心を持ち新たに知ることとは元から知識を持つているということより大切なのだと思います。「自分は何も知らない駄目な人間だな」などと思つたり、とてつもない無力感に襲われた時もありましたが、今ではこのように考えることができています。

この夏私は多くの人と出会いました。その中でも第二二代高校生平和大使のメンバーたちとの出会いはとても新しいものでした。九州から北海道まで様々な地域に住む高校生が集まつて同じ「核兵器のない平和な世界」を求めて一緒に活動するので、この交流は一年前「戦争体験を継ぐ」というテーマにしようと思った時には、感じることはできないだろうと諦めていた「ただただ楽しい」という感覚をくれました。この夏の

活動でも皆が平和や戦争に興味を持つ社会、そして戦争のない平和な世界の実現は私が思っていたよりずっとずっと難しいことなのだと思います。知らされました。しかし、そんな世界の実現に向けて考えたり活動する高校生が大勢いるということも知ったのです！また、高校生平和大使の活動で多く使われた「微力だけど無力じゃない」という言葉を聞き救われた気持ちになりました。自分には大きな力があるのだと思ひ込み言い聞かせるのではなく、「私たち人間一人一人には本当に小さな力しかないけれど、その小さな力がどれほど重要なのか」と言っているように私は思えたのです。

夏休み明けの報告会ではスイスの学びについて話したので、今回はまた少し違ったエピソードについてお話しします。

平和大使メンバーの中に、東日本大震災による原発事故の被害を受けた高校生がいました。福島から来た彼女と移動中のバスで話していました。「元の家にはもう帰れない。」私は思わず「え？」と聞き返してしまいました。彼女は少し暗い悲しそう

な顔で「うん……。だから今は新しい家に住んでるんだ。」と言いました。その表情が帰れない辛さを表していたのか、私が聞き返したのを聞いてやっぱり知らないのかという気持ちを表していたのかわかりません。私は彼女の顔を見て申し訳なさで恥ずかしさと、どう答えたらいいのか困るのと気まづくなっていました。結局「そっか……。大変やな。」などというありふれた返答をしてしまった気がします。



あとから考えてみると私は今家に帰れない人がいる状況が続いているということは知っていました。しかし、実際に被害を受けた彼女がいざとなりて話をするといきなり理解できなくなるのです。頭で理解していたと思ひ込んでいても感覚では理解できていないのです。この問題はずっと私の中にありました。資料館へ行ってもインタビューをしても、いつも知っていたつもりだったものがいざ目の前に来ると初めて知ったような感覚になり、本当の意味では知らなかったのかもしれないのです。このことは私の卒業プロジェクトにおいてだけでなく、情報に溢れる今の社会で生きていく上でも重要であり深刻な問題だと私は考えています。これから活動する中でも考えていきたいと思っています。本当にたくさんさんの体験をした夏休みの「活動」の期間でした。

さて、夏休みを終えてから私は学校での報告会からはじめ、3つ目の要素である「発信」という言葉を重視して活動しています。現在は今まで私が聞いてきたことやそれを受け私自身が思ったことなどをコラム

にしたものを高等部のみんなに読んでもらうという取り組みを行っています。内容としては私が伝えたいことが十分に書けている気がしています。ただ、まだまだ他の人に伝える方法については考え尽くせていないのだということを今月の口頭試問で気づきました。「発信」というのは満足のいく文章を書けばいいだけではなかったのです。それをどう貼り出すのかどう告知するのかまで全てが「発信」だったのです。



しかしなぜそんな初歩的なところでつまづいてしまっているのでしょうか。おそらくその原因は今まで行ってきた活動の多くにおいて私は完全に受ける側、または何かに参加するという側だったということだと思います。このことに私は夏休み明けの卒プロの進捗状況をクラス内でシェアした時に改めて感じました。クラスメイトの多くがはじめから最後までを一人で行っているのに対して私は誰かが行っている活動に参加していわばそこで言われたことをやっていたのだなど。平和大使の活動も同じです。確かに私は活動し実際国連の欧州本部という大きな場所にも立ちました。けれどその日程や活動内容はあらかじめ決められていましたし、お金も一切負担していません。このようなことが決して悪いことだとは思っていませんが、「発信」の活動をするにあたってはこれまで行ってきた活動の仕方がこれから先の活動に影響を与えるような形になってしまいました。ですから私にとっては、これからは誰も管理してくれない状況の中、全てを自分で行うということに挑戦する期間でもあ



るのです。

また十一月二九日にこの夏出会った米沢さんという被爆者の方を学校へお招きし、証言を聴く会を開こうと考えています。今の時代、戦争体験を直接聞くことは本当に貴重な機会となってきました。実際に苦痛を感じた人から聞くことはそれ以外とは得るものや気づくものの量が違うと私は実感してきました。だから中高学年はもちろん一年生も含めた

低学年の生徒にも私は聞いてもらいたいです。いえ、実際のところは聞くべきだと思っています。今なら聞くことができるのですから。とにかく時間がないのです。ですから聞きたいと思う人なら年齢関係なく誰でも来れるという、そんな会にできたらと思います。

最後に、私が今までの取り組みの中で考えた一つのことについてお話しします。

私は、今まで平和と戦争の関係について何度も考えてきました。まず、戦争が存在しなければ平和という概念が存在しないのは確かです。戦争が存在した上でそうでない状況のことを平和と呼ぶのでしょうか。では、戦争がなければ平和も存在しないのでしょうか？今の時点では私はそんなことはないと思っています。「人類は文字を使うことができる唯一の生き物である」十年年（高校一年生）

の時に受けた人類史で出てきた言葉です。私たちは言葉と文字によって他の個体が体験したことを詳しく伝え、自分自身が実際に体験することなくその記憶を持つことができるのです。つまり体験を共有することが

できるのです。私たちは戦争の苦しみを実際に存在させるのではなく私たちの頭の中、内側に存在させることが可能なのだと思います。しかし情報を持っているのと実感するのとがどれほど違うか私自身何度も体験しているのです、これが大変難しいことだと思います。それに、これは今のところの考えでありまだ私の出した結論ではありません。なにか、私の心の中で引かかるものがあるからです。ですから残りのプロジェクト期間でも考え続けていきます。

私はこの一年間「戦争体験を継ぐ」というテーマで取り組んできました。そして私たちの前に続く道はとてつもなく長く険しいのだということに気づかされてきました。そして、学ぶたびにその道が伸びていくように感じられます。しかし、同時にその道を少しずつでも進もうと努力することは無意味でないとも感じます。私たちはこの長い道を歩もうとすることを諦めてはいけません。私たち人間が作り出した私たち自身の道だから。

ありがとうございました。

# 令和3年度介護報酬改定の主な事項について

国は本年度介護保障の改定を発表しました。構成労働省の資料によると、その概要は次のとおりです。

## 令和3年度介護報酬改定の概要

新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、団塊の世代の全てが75歳以上となる2025年に向けて、2040年も見据えながら、「地域包括ケアシステムの推進」、「自立支援・重度化防止の取組の推進」、「介護人材の確保・介護現場の革新」、「制度の安定性・持続可能性の確保」を図る。

改定率：+0.70% ※うち、新型コロナウイルス感染症に対応するための特例的な評価 0.05%（令和3年9月末までの間）

### 1. 感染症や災害への対応力強化

※各事項は主なもの

■感染症や災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築

#### ○日頃からの備えと業務継続に向けた取組の推進

・感染症対策の強化 ・業務継続に向けた取組の強化 ・災害への地域と連携した対応の強化 ・通所介護等の事業所規模別の報酬等に関する対応

### 2. 地域包括ケアシステムの推進

■住み慣れた地域において、利用者の尊厳を保持しつつ、必要なサービスが切れ目なく提供されるよう取組を推進

#### (1) 認知症への対応力向上に向けた取組の推進

・認知症専門ケア加算の訪問サービスへの拡充 ・無資格者への認知症介護基礎研修受講義務づけ

#### (2) 看取りへの対応の充実

・が伊ドイの取組推進 ・施設等における評価の充実

#### (3) 医療と介護の連携の推進

・老健施設の医療ニーズへの対応強化

#### (4) 在宅サービス、介護保険施設や高齢者住まいの機能・対応強化

・訪問看護や訪問入浴の充実 ・緊急時の宿泊対応の充実 ・個室ユニットの定員上限の明確化

#### (5) ケアマネジメントの質の向上と公正中立性の確保

・事務の効率化による進捗の緩和 ・医療機関との情報連携強化 ・介護予防支援の充実

#### (6) 地域の特性に応じたサービスの確保

・過疎地域等への対応（地方分権提案）

### 4. 介護人材の確保・介護現場の革新

■喫緊・重要な課題として、介護人材の確保・介護現場の革新に対応

#### (1) 介護職員の処遇改善や職場環境の改善に向けた取組の推進

・特定処遇改善加算の介護職員間の配分ルールの柔軟化による取得促進

・職員の離職防止・定着に資する取組の推進

・サービス提供体制強化加算における介護福祉士が多い職場の評価の充実

・人員配置基準における両立支援への配慮 ・ハラスメント対策の強化

#### (2) テクノロジーの活用や人員基準・運営基準の緩和を通じた業務効率化・業務負担軽減の推進

・見守り機器を導入した場合の夜間における人員配置の緩和

・会議や多職種連携におけるICTの活用

・特養の併設の場合の兼務等の緩和 ・3ユニットの認知症GHの夜勤職員体制の緩和

#### (3) 文書負担軽減や手続きの効率化による介護現場の業務負担軽減の推進

・署名・押印の見直し ・電磁的記録による保存等 ・運営規程の掲示の柔軟化

### 3. 自立支援・重度化防止の取組の推進

■制度の目的に沿って、質の評価やデータ活用を行いながら、科学的に効果が裏付けられた質の高いサービスの提供を推進

#### (1) リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の取組の連携・強化

・計画作成や多職種間会議でのリハ、口腔、栄養専門職の関与の明確化

・リハビリテーションマネジメントの強化 ・退院退所直後のリハの充実

・通所介護や特養等における外部のリハ専門職等との連携による介護の推進

・通所介護における機能訓練や入浴介助の取組の強化

・介護保険施設や通所介護等における口腔衛生の管理や栄養マネジメントの強化

#### (2) 介護サービスの質の評価と科学的介護の取組の推進

・CHASE・VISIT情報の収集・活用とPDCAサイクルの推進

・ADL維持等加算の拡充

#### (3) 寝たきり防止等、重度化防止の取組の推進

・施設での日中生活支援の評価 ・褥瘡マネジメント、排せつ支援の強化

### 5. 制度の安定性・持続可能性の確保

■必要なサービスは確保しつつ、適正化・重点化を図る

#### (1) 評価の適正化・重点化

・区分支給限度基準額の計算方法の一部見直し ・訪問看護のリハの評価・提供回数等の見直し

・長期間利用の介護予防リハの評価の見直し ・居宅療養管理指導の居住場所に応じた評価の見直し

・介護療養型医療施設の基本報酬の見直し ・介護職員処遇改善加算（Ⅳ）（Ⅴ）の廃止

・生活援助の訪問回数が多い利用者等のケアプランの検証

#### (2) 報酬体系の簡素化

・月額報酬化（療養通所介護） ・加算の整理統合（リハ、口腔、栄養等）

### 6. その他の事項

・介護保険施設におけるリスクマネジメントの強化

・高齢者虐待防止の推進 ・基準費用額（食費）の見直し

・基本報酬の見直し

改定内容は大きく5項目に区分され、その内容は多岐にわたっていますが、紙面に限りがありますのでここでは、私たち日ケアの皆様に関わりの深い①訪問介護②居宅介護支援事業③通所介護に関連する部分について抜粋してみました。

先ず2-(1)認知症への対応力向上に向けた取組の推進(その1)として、訪問系サービスに認知症専門ケア加算が新設されました。

## 2-(1) 認知症への対応力向上に向けた取組の推進（その1）

資料

### 認知症専門ケア加算の訪問サービスへの拡充

■ 介護サービスにおける認知症対応力を向上させていく観点から、訪問系サービスについて、認知症専門ケア加算を新たに創設する。【告示改正】

### 訪問介護、訪問入浴介護、夜間対応型訪問介護、定期巡回・随時対応型訪問介護看護

#### 認知症専門ケア加算(Ⅰ) 3単位/日(新設) 認知症専門ケア加算(Ⅱ) 4単位/日(新設)

※定期巡回・随時対応型訪問介護看護、夜間対応型訪問介護(Ⅱ)については、認知症専門ケア加算(Ⅰ)90単位/月、認知症専門ケア加算(Ⅱ)120単位/月

(算定要件) ※既存の他サービスの認知症専門ケア加算と同様の要件

#### <認知症専門ケア加算(Ⅰ)>

・ 認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の者が利用者の100分の50以上

・ 認知症介護実践リーダー研修修了者を認知症高齢者の日常生活自立度Ⅲ以上の者が20名未満の場合は1名以上、20名以上の場合は1に、当該対象者の数が

19を超えて10又は端数を増すごとに1を加えて得た数以上配置し、専門的な認知症ケアを実施

・ 当該事業所の従業員に対して、認知症ケアに関する留意事項の伝達又は技術的指導に係る会議を定期的に開催

#### <認知症専門ケア加算(Ⅱ)>

・ 認知症専門ケア加算(Ⅰ)の要件を満たし、かつ、認知症介護指導者養成研修修了者を1名以上配置し、事業所全体の認知症ケアの指導等を実施

・ 介護、看護職員ごとの認知症ケアに関する研修計画を作成し、実施又は実施を予定

次に2-(1)認知症への対応力向上に向けた取組の推進(その2)として示されたのは、今後介護の現場で介護職員として働く際は、以下のいずれかの資格を取得、あるいは受講していることが必要条件になるということです。

- ケアマネージャー ●介護福祉士 ●社会福祉士 ●看護師 ●実務者研修
- 介護初任者研修(旧ヘルパー2級)

現在、なにも資格を持っていない場合は、3年以内に資格を取得、あるいは「認知症介護基礎研修」を受講しなければならないという内容です。

## 2-(1) 認知症への対応力向上に向けた取組の推進 (その2)

資料

### 無資格者への認知症介護基礎研修受講義務づけ

R3.1.13諮問・答申済

- 介護に関わる全ての者の認知症対応力を向上させていくため、介護に直接携わる職員が認知症介護基礎研修を受講するための措置を義務づける。【省令改正】

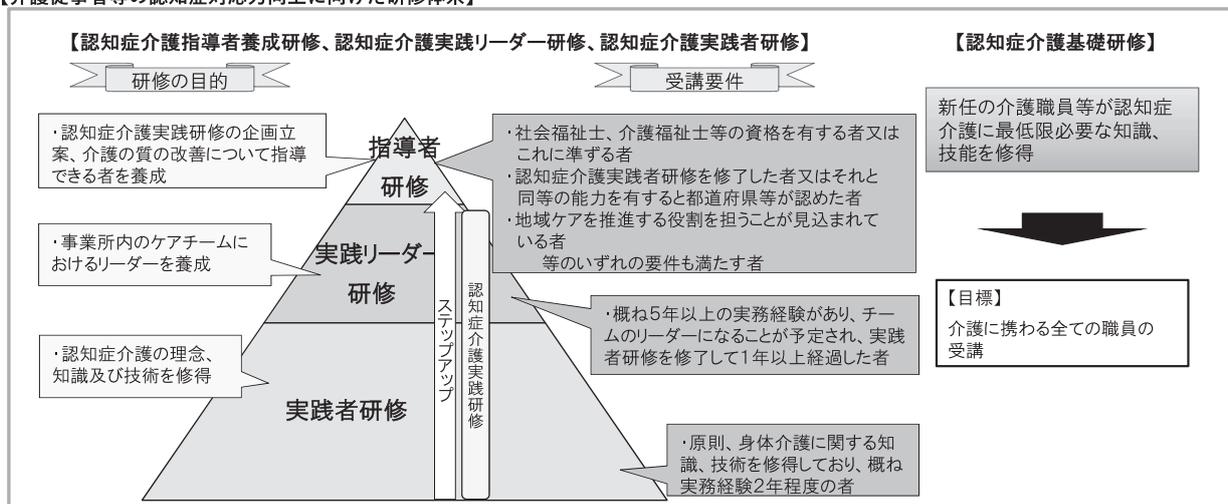
(※3年の経過措置期間を設ける)

### 全サービス(無資格者がいない訪問系サービス(訪問入浴介護を除く)、福祉用具貸与、居宅介護支援を除く)

- 認知症についての理解の下、本人主体の介護を行い、認知症の人の尊厳の保障を実現していく観点から、介護に関わる全ての者の認知症対応力を向上させていくため、介護サービス事業者、介護に直接携わる職員のうち、医療・福祉関係の資格を有さない者について、認知症介護基礎研修を受講させるために必要な措置を講じることを義務づける。

(※3年の経過措置期間を設ける。新入職員の受講について1年の猶予期間を設ける)

### 【介護従事者等の認知症対応力向上に向けた研修体系】



次に2-(2)看取りへの対応の充実についてです。この項目の中で看取り期の訪問介護を提供する場合の2時間ルールが弾力化されています。

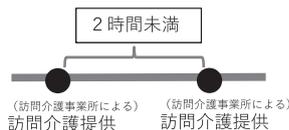
## 2-(2) 看取りへの対応の充実

資料

### 訪問介護における看取りへの対応の充実

- 看取り期の利用者に訪問介護を提供する場合に、2時間ルール(2時間未満の間隔のサービス提供は所要時間を合算すること)を弾力化し、所要時間を合算せずにそれぞれの所定単位数の算定を可能とする。

### 訪問介護



※1 通院等のための乗車又は降車の介助が中心である場合を除く。  
 ※2 頻回の訪問として、提供する20分未満の身体介護中心型の単位を算定する際の例外あり。

### <現行の取扱い>

それぞれの所要時間を合算して報酬を算定  
 例：それぞれ身体介護を25分提供  
 →合算して50分提供したものととして報酬を算定するため、30分以上1時間未満の396単位を算定

➡ **<改定後> 【通知改正】**  
**所要時間を合算せずにそれぞれの所定単位数を算定**  
 例：それぞれ身体介護を25分提供  
 →合算せずにそれぞれ25分提供したものととして報酬を算定するため、250単位×2回=500単位を算定

次に2-(4)在宅サービスの機能と連携の強化として、訪問介護の通院等乗降介助の見直しがされました。

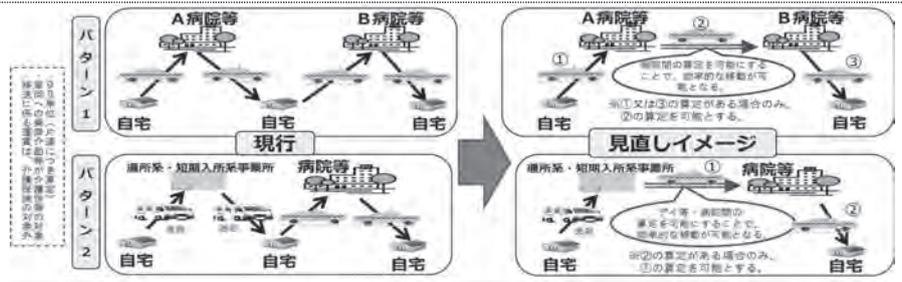
## 2-(4) 在宅サービスの機能と連携の強化

### 通院等乗降介助の見直し

- 訪問介護の通院等乗降介助について、利用者の負担軽減や利便性向上の観点から、居宅が始点又は終点となる場合の目的地間の移送についても算定可能とする。【通知改正】

## 訪問介護

- 通院等乗降介助について、目的地が複数ある場合であっても、**居宅が始点又は終点となる場合には**、その間の病院等から病院等への移送や、通所系サービス・短期入所系サービスの事業所から病院等への移送といった**目的地間の移送に係る乗降介助**に関しても、**同一の事業所が行うことを条件に、算定可能とする。**



次に2-(5)ケアマネージメントの質の向上と公正中立性の確保について様々な加算の改定や新設がなされています。

## 2-(5) ケアマネージメントの質の向上と公正中立性の確保

資料 2 枚

### 特定事業所加算の見直し

- **特定事業所加算において、事業所間連携により体制確保や対応等を行う事業所を新たに評価する。【告示改正】**

### 居宅介護支援

<現行>	<改定後>
特定事業所加算 (I) 500単位/月 →	特定事業所加算 (I) 505単位/月
特定事業所加算 (II) 400単位/月 →	特定事業所加算 (II) 407単位/月
特定事業所加算 (III) 300単位/月 →	特定事業所加算 (III) 309単位/月
	特定事業所加算 (A) 100単位/月 (新設)

(※) 特定事業所加算 (IV) は特定事業所加算から切り離して「特定事業所医療介護連携加算」とする。

〔算定要件 (特定事業所加算 (A)) 〕 ※加算 I・II・IIIと異なる部分

- ・介護支援専門員の配置(要件2)：常勤1名以上、非常勤1名以上 (非常勤は他事業との兼務可)
- ・連絡体制・相談体制確保(要件4)、研修実施(要件6)、実務研修への協力(要件11)、事例検討会等実施(要件12)：他の事業所との連携による対応を可とする
- (※) 加算 I・II・III・Aの要件として、必要に応じて、多様な主体等が提供する生活支援のサービス (イフォーメーションを含む) が包括的に提供されるような居宅サービス計画を作成していることを新たに求める (新設)

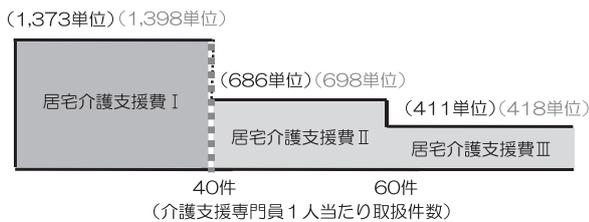
### 事務の効率化による逓減制の緩和

- **適切なケアマネジメントの実施を確保しつつ、経営の安定化を図る観点から、逓減制において、ICT活用又は事務職員の配置を行っている場合の適用件数を見直す (逓減制の適用を40件以上から45件以上とする)。**

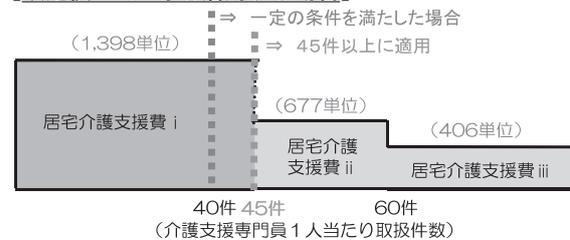
### 居宅介護支援

例：要介護3・4・5の場合 (黒字：現行の単位数、赤字：改定後の単位数)

#### 【現行】



#### 【改定後：ICT等を活用する場合】



### 医療機関との情報連携強化

- **利用者が医療機関で診察を受ける際に同席し、医師等と情報連携を行い、当該情報を踏まえてケアマネジメントを行うことを新たに評価する。【告示改正】**

### 居宅介護支援

**通院時情報連携加算 50単位/月 (新設)** ※利用者1人につき、1月に1回の算定を限度とする。

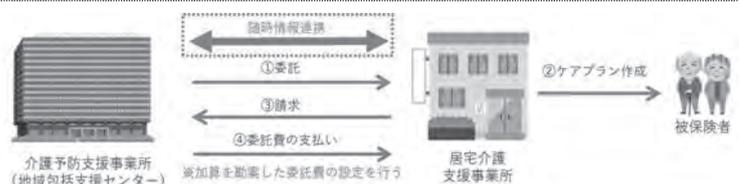
### 介護予防支援の充実

- **介護予防支援について、地域包括支援センターが委託する個々のケアプランについて、居宅介護支援事業者との情報連携等を新たに評価する。【告示改正】**

### 介護予防支援

**委託連携加算 300単位/月 (新設)**

※利用者1人につき指定居宅介護支援事業所に委託する初回に限り、所定単位数を算定。



次に3-(1) リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の取組の連携・強化として通所介護における機能訓練加算が改定されました。

### 3-(1) リハビリテーション・機能訓練、口腔、栄養の取組の連携・強化

資料

#### 通所介護における機能訓練や入浴介助の取組の強化

- 通所介護の個別機能訓練加算について、より利用者の自立支援等に資する機能訓練の提供を促進する観点から、加算区分や要件の見直しを行う。【告示改正】
- 通所介護、通リハの入浴介助加算について、利用者の自宅での入浴の自立を図る観点から、個別の入浴計画に基づく入浴介助を新たに評価する。【告示改正】

#### 通所介護、地域密着型通所介護

<b>&lt;現行&gt;</b>		<b>&lt;改定後&gt;</b>		
個別機能訓練加算 (I)	46単位/日	個別機能訓練加算 (I) イ	56単位/日	※イとロは併算定不可 (新設) ※加算 (I) に上乘せして算定
個別機能訓練加算 (II)	56単位/日	個別機能訓練加算 (I) ロ	85単位/日	
(併算定が可能)		個別機能訓練加算 (II)	20単位/月	
(算定要件)				

次に4-(3) 文書負担軽減や手続きの効率化による介護現場の業務負担軽減の推進についてです。

### 4-(3) 文書負担軽減や手続きの効率化による介護現場の業務負担軽減の推進

資料

#### 署名・押印の見直し、電磁的記録による保存等【全サービス】

R3.1.13 諮問・答申済

- 利用者等への説明・同意について、電磁的な対応を原則認める。署名・押印を求めないことが可能であることと代替手段を明示する。【省令改正】
- 諸記録の保存・交付等について、電磁的な対応を原則認める。【省令改正】

#### 運営規程の掲示の柔軟化【全サービス】

R3.1.13 諮問・答申済

- 運営規程等の重要事項の掲示について、事業所の掲示だけでなく、閲覧可能な形でファイル等で備え置くこと等を可能とする。【省令改正】

なお、紙面の都合で一部省略していますので各センターで関連があると思われる部分については、厚生労働省のホームページでご確認頂きますようお願いいたします。

## JMS 事務局通信

(日本ケアシステム協会)

**令和3年夏号をお届けします。**

会員皆様方から各センターの活動状況などお寄せいただき、ありがとうございます。

まず初めに令和3年度理事会並びに定時総会の書面議決の結果についてご報告申し上げます。

**本年度の全国大会は、**昨年に引き続き新型コロナウイルスによる

感染予防の観点から中止せざるを得ない状況となったことから下記議案について書面にてご審議頂きました。

第1号議案 令和2年度事業報告並びに活動決算報告について

第2号議案 令和3年度事業計画(案)並びに活動予算(案)について

第3号議案 役員改選について

第4号議案 令和3年度会費・保険料について

以上4議案について、役員並びに会員皆様方から書面にて表決を頂きました。

理事、監事(総数8名)の皆様、また正会員(総数18団体)の皆様全員から全議案について原案どおり賛成とのご回答を頂きました。

よって理事会、総会とも承認可決とさせていただきますのでご報告申し上げます。

本年度もなお一層のご支援ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

来年こそは、各センターの皆様

方と一堂に会して全国大会が開催できることを切に願うものです。

全国各地で私たち介護にかかわる事業所や施設での感染が報道されています。介護現場での感染は、職員から持ち込まれることが多いようですがそれは介護サービスの形態上、やむをえません。

もし万一不幸にして事業所などで感染がおこったとしても、誰も決して責められることはないという事です。感染防止の徹底はもちろん重要なことですが、どんなに徹底していても感染することも

あります。

やむをえず感染した場合、いちばん大切なのは、職員、利用者さまを問わず、感染された方への

いたわりとサポート、そして職員の迅速かつ一致団結した適切な対応だと思えます。

政府はウイルス感染拡大防止のため発出していた緊急事態宣言を解除しましたが、オリンピック東京大会を控え何としても感染拡大を防ぐための方策を検討しています。

6月に入りワクチン接種が急ピッチで進んでいます。感染防止の切り札とされているワクチンですが一日も早く効果が表れ穏やかな日常を取り戻せるよう祈るばかりです。

介護保険業務の  
様々なご要望にお答えします

介護保険トータルシステム「Rely III」

株式会社

アール・シー・エス

高松市錦町2丁目2番17号  
西日本放送錦町ビル  
TEL:(087)804-8811  
FAX:(087)826-5010

あいおいニッセイ同和損保代理店

(株)フリーエージェント

\*損保・生保・社会保険労務士\*  
扱っています。

高松市伏石町 2028-2  
TEL 087-816-8123  
FAX 087-815-1171

実務者養成施設

介護福祉士実務者研修 < 通信課程 >

- ★4月から翌年3月まで毎月受付  
「年12コース」各コース定員24名
- ★全国どこからでも応募できます
- ★スクリーング(通学)は  
「医療的ケア演習」を含み6.5日間

【照会先】 ラポールカレッジ 研修所 / 事務局  
TEL 087-815-0760

〒761-8052 高松市松並町 802 番地 1 / 日本ケアシステム協会内  
駐車場有り(無料)/宿泊 1,000円～

はじめまして  
まいたうんメール便  
です

高松メールセンターからのご案内  
メール便... ハガキ 封書 カタログ など

激安価格で  
配達します

お問い合わせは  
こちらから 四国メールネットワーク協同組合  
(有)タウンネット 高松メールセンター  
高松市朝日町4丁目10番60号  
TEL.087-813-0426 FAX.087-813-0436  
E-mail takamatsu@carol.ocn.ne.jp  
http://www.shikoku-mp.com/



Achieve every way

株式会社 ウエイ企画

〒760-0062 高松市塩上町7-2  
TEL:087-837-1159 FAX:087-897-3007

www.network-way.com

WEB・システム グラフィックデザイン イベント企画・運営

ハイエース・シエンタ・アルファードなど  
福祉車両のことなら  
香川トヨペットにお任せください!



香川トヨペット  
定休日 月曜日 本社/高松市春日町1378番地  
https://www.kagawa-toyopet.com/

詳しくは香川トヨペットまでご連絡ください。

087-843-8855

総合印刷・イベント事業・マニュアル制作  
デジタルコンテンツ企画制作



株式会社 高松 東京

成光社

〒760-0065 高松市朝日町5-14-2  
TEL 087-823-0222 FAX 087-823-0211  
www.seiko-sha.co.jp

地域とともにこれからも。



香川銀行

トモホールディングス

消防設備士の店

四国防災設備  
有限会社

消防設備保守点検

〒761-0612 香川県木田郡三木町氷上1833-6番地  
TEL (087) 898-3913  
FAX (087) 898-8801

ご利用ください。

E-mail (電子メール)



magokoro@hyper.ocn.ne.jp

URL (ホームページ)



http://www.jp-care.gr.jp

編集後記

この時期になると事務所隣の田んぼで近所の保育園児が泥んこ遊びに興じます。にぎやかな歓声が止んだ後、農機具のエンジン音がして整然と元気な早苗が植えられ、やがて蛙の大合唱が始まります。

庭に1本ある葡萄の木に青い実をつけた房が何本も垂れ下がり野鳥の注目を集めています。琵琶の木にも小さな実が沢山色づいて、いつもの梅雨時の光景です。

昨日、2度目のワクチン接種を済ませました。高齢者なので一足早く接種させていただきました。一日も早くコロナが終息しますように。皆さまもう少し頑張りましょう。

全国まごころケアネット  
 特定非営利活動法人 日本ケアシステム協会  
 まごころケアサービスセンター

センターの名称	住 所	Eメール	TEL	FAX
本 部	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-815-0771	087-815-0773
まごころケア旭川	〒070-0037 北海道旭川市7条通8丁目セントラル7条ビル202号室	magokolo@tmt.ne.jp	0166-26-8639	0166-74-3172
まごころケア塩釜	〒985-0043 宮城県塩釜市袖野田町39-2	jms@cocoa.ocn.ne.jp	022-362-2030	022-362-3303
まごころケアサービス 福島センター	〒960-2262 福島県福島市在庭坂字南林60-2	magokoro@safins.ne.jp	024-573-7539	024-591-5441
まごころケアサービス 二本松センター	〒964-0903 福島県二本松市根崎1-9	kuwabara.masaaki@ivory.plala.or.jp	0243-22-0112	0243-22-0112
まごころサービス 国見センター	〒969-1761 福島県伊達郡国見町藤田日渡四18の1	magokoro923@yahoo.co.jp	024-585-5923	024-585-5924
まごころケア千葉	〒262-0033 千葉県千葉市花見川区幕張本郷1-23-15 グランドウール第2-107号	magokoro12315@nifty.com	043-274-9711	043-274-9718
まごころケア京田辺	〒610-0331 京都府京田辺市田辺北川44番地	sqkg13630@leto.eonet.ne.jp	0774-64-3722	0774-64-3722
まごころサービス 岡山センター	〒703-8232 岡山県岡山市中区関19番地1	magokoronowa@mx4.et.tiki.ne.jp	086-278-2926	086-278-2966
まごころサービス 倉敷センター	〒706-0001 岡山県玉野市田井3-12-18	rappyon@lime.ocn.ne.jp	0863-31-6640	0863-31-5110
まごころケア高松	〒761-8052 香川県高松市松並町802番地1	magokoro@hyper.ocn.ne.jp	087-865-8001	087-865-8039
まごころケア国分寺	〒769-0102 香川県高松市国分寺町国分1284-1	ajisai@eagle.ocn.ne.jp	087-874-6625	087-874-6685
まごころケアにこにこ三豊	〒767-0001 香川県三豊市高瀬町上高瀬1883-1	nikoniko-mitoyo@shirt.ocn.ne.jp	0875-73-6750	0875-73-6751
まごころケア丸亀	〒765-0032 香川県善通寺市原田町1317-7	tyusan.n-377-p4376-o@wing.ocn.ne.jp	0877-64-0278	0877-64-0279
まごころケア屋島やすらぎ	〒761-0111 香川県高松市屋島東町1414	mal1ka1584yasuragi@swan.ocn.ne.jp	087-843-9590	087-841-3853
まごころケアサービス 大川センター	〒761-0904 香川県さぬき市大川町田面1198	okawa@samariya.or.jp	0879-43-3191	0879-23-2712
まごころケア西春日	〒761-8051 香川県高松市西春日町1510番地1	keisuke64kasai@gmail.com	087-869-1165	087-869-1195
まごころサービス 徳島センター	〒770-0923 徳島県徳島市大道3丁目22-1	magokoro@coral.plala.or.jp	088-624-6578	088-624-6585
まごころケア ぽっかぽか川之江	〒799-0101 愛媛県四国中央市川之江町1660-1	kamayan@cosmostv.jp	0896-56-2623	0896-77-5761

「日本ケアシステム協会」会報  
 令和3年7月1日 発行No.156

発 行 所 〒761-8052 高松市松並町802番地1  
 TEL087-815-0771 FAX087-815-0773  
 編集発行人 兼間 道子  
 郵便振替 口座番号 01610-0-92689  
 印 刷 所 (株)成光社

まごころケア高松  
 NPO法人 長寿社会支援協会

〒761-8052 高松市松並町802番地1  
 TEL087-865-8001 FAX087-865-8039  
 E-mail magokoro@hyper.ocn.ne.jp  
 URL http://cho-jyu.info/